

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	017130072		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム里の家大曲(あかしあ)		
所在地	北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171300072-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171300072-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 1 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「認知する事に障害があっても適切な支援があれば普通に暮らせる」をモットーにご家族、地域との関係性を構築しながら地域社会に貢献する事を目的としています。利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で思い思いに生活し、居心地のよい暮らしをおくることにより、その人らしい穏やかな日常生活を続けられるように支援しています。具体的にはそれまでの暮らしに近い環境となるよう慣れ親しんだ家具や道具に囲まれた環境づくりを行なっています。畑仕事や買い物を楽しみ、頻回な外出行事や地域の方との交流を行なっています。又職員は入居者様と生活をともにしていることを意識してゆっくりとかかわりを持ち、一人ひとりの状態に応じた支援を専門職として提供できるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【管理運営体制の充実】  
平成12年以降、複数のグループホームを運営してきた法人は、理念徹底・人材育成・書式整備・災害対策・医療支援・地域連携などホームの質的向上に努めており、管理運営体制が充実しています。  
【理念徹底とケアサービスへの反映】  
職員は、運営理念や目標を理解し、経験豊かなホーム長の指導の下に利用者が自分らしく安心して楽しく暮らせるよう支援に努め、詳細な介護諸記録を作成してケアサービスに反映させています。  
【変化のある暮らし支援】  
ホームは、主催するお祭り、地域行事参加、味と彩り工夫の食事や外食、花見や動物園等の外出行事、ボランティアの訪問、冬の大型商業施設訪問など変化と楽しみのある暮らしを支援しています。  
【地域との多彩な交流】  
ホームは、町内会行事参加協力、主催する秋祭りへの住民参加、各種地域ボランティアの訪問、小学校や保育園との交流、会議や避難訓練への住民参加など地域と頻繁で多種多様な交流があります。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内には理念が掲示されている。毎朝行っている申し送りで、理念の唱和を行い目的意識を持ちながら、理念の共有や理解を深め実践につなげている。	運営法人のモットー(標語)と系列事業所共通の理念があり、他に、ホーム独自にユニット単位のケア目標を設定しています。毎朝の唱和やユニット会議等で理念の理解と確認に努め、ケアサービスを実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。町内会の行事や廃品回収に積極的に参加している。絵手紙サークルやボランティアの訪問、小学校や保育園との交流も持っている。ホームの行事や避難訓練にもご参加いただいている。	町内会諸行事へ積極的に参加協力し、屋台や抽選会があるホームの秋祭りでは住民や子供達が楽しんでます。さらに、多種多様な地域ボランティアの訪問、小学校や保育園との交流、会議や避難訓練への住民参加など地域との日常的交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのお祭りや避難訓練に参加して頂いており、認知症の人の理解や支援の方法を知って頂けるよう交流を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当職員、町内会長、福祉委員、地域包括支援センター職員、ご家族様、入居者様、管理者、職員、ボランティアの参加で運営推進会議を行なっている。入居者様の日々の様子や行事報告を行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、市及び地域包括支援センター職員、町内会長、福祉委員、ボランティア、家族及び利用者など多数参加して定期的開催されています。会議における情報や要望等は速やかに検討して運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に、市担当者と連絡を取っている。運営推進会議を利用し、認知症介護の実情やケアサービスの取り組みについてお伝えしている。協力関係を築けるよう努めている。	運営推進会議以外の市職員来訪時にも運営等について話し合いをしています。ホーム長は市担当窓口へも随時訪問して相談や意見交換を行い、行政との連携協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修や勉強会を行なっている。日頃から、職員間で身体拘束についての話し合いをしながら、共通の認識を持っている。玄関等は電子錠で施錠されているが、身体拘束に当たる事は理解している。	職員は、身体拘束をしないケアを外部研修や法人内研修受講、マニュアル、ホーム内のミーティングや日常業務を通して理解し、実践しています。ホーム前の交通量が多いことから日中玄関施錠をしていますが、利用者が自由に外出できるよう対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修会や、虐待について学ぶ機会を持っている。虐待について話し合う機会を持つ事で、虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。制度を理解し、活用出来るように努めている。成年後見制度を利用されている方や新たに申し立てを行なった入居者様もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、管理者より不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得頂けるように十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様からの意見、要望については書面を持って提出し、迅速に対応出来るよう心掛けている。意見や要望を伝えやすいように、日頃より話しやすい関係作りにも努めている。	家族来訪時や運営推進会議参加時に家族と話し合う機会を持ち、毎月発行する多数の写真入り「里の家だより」で利用者の様子を伝えていきます。家族からの要望等は、対応記録簿に記載して検討し、運営に反映させていきます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内会議等で話し合い、意見をまとめて管理者に報告、相談している。業務軽減のため、食事作り、掃除、車の運転の方が配属され、介護に専念できる環境作りにも取り組んでいる。	職員間の良好なコミュニケーションによって、日常業務やユニット会議などで率直に話し合いをしています。本部の統括推進課長も随時ホームに来訪して会議に参加するなど職員と意見交換を行っており、ホーム長も個人懇談などで職員の提案等を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業の環境作りは少しずつ整い、育児休暇で子育て中の方もいる。掃除、食事、運転手配属を行い、業務軽減を図って休憩時間を取る環境作りを行っている。希望日数の職務についていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加している。内部研修は年度初めに研修計画を立案し実施している。資格取得に向けて各種研修会に参加している方もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北広島サービスネットワーク連絡協議会に所属しており勉強会、研修会、交流会に参加している。グループホーム間の交流会も定着してきている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている事や不安に思っている事、要望等があれば伺い、安心して生活できるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や入居時に、ご家族が困っている事や不安な事、要望等を伺いながら安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にお話を伺いながら、必要としている支援を見極め、安心して生活して頂ける様な支援の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、出来る事のお手伝いをして頂いたり、入居者様同士の関係作りを支援し、余暇時間を楽しんで頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子や体調について、こまめに報告を行ないながら入居者様の様子を理解して頂いている。受診に同行して頂いたり、行事に参加して頂いたりしながら、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常にご家族や親戚、お孫さん、住んでいた近所の方やお友達の面会があり交流の時を持っている。	利用者の馴染みの商店や美容院などへの外出希望には職員の業務状態に合わせて同行し、外出希望先によっては家族の協力を頂きながら支援しています。知人などの来訪際も、温かく歓迎して気楽に過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、良い関係を築けるよう食堂席の配置を考えている。一緒に歌ったり、パズルや塗り絵を楽しまれたりとコミュニケーションを取られている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様が来設される事もある。入院されている病院や、その後に入所された施設へ面会に行ったりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伝えられる方には、可能な限り都度対応に努めている。意思表示が困難な方には、表情や行動を観察しながら、ご本人の思いをくみ取る様に努めている。	職員は、利用者との日頃の関わりから思いや意向を把握していますが、困難な時は家族からの情報、アセスメントシートなど各種記録参考、職員間の相談、本人が望むと思われる複数の提案により嫌がる事は出来るだけ避けるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時等に、ご本人やご家族様に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残したり、職員間で情報交換を行ないながら、それぞれの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月ごとに介護計画の評価と見直しを行なっている。ご本人の現状に即した介護計画を作成している。ご本人、ご家族の希望や要望を伺っている。毎月のユニット会議でも、ご本人らしく暮らして頂ける様、話し合いの場を設けている。	利用者のアセスメントを担当職員が行い、全職員が参加する毎月のケアカンファレンスでプラン内容の意見交換をしています。プラン見直しの際は、本人や家族の要望も聞き本人の状態に即したプランを作成し、全職員が共有してケアに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に、日々の様子やケアの実践・結果を記入している。気づきや工夫についても記録に残し、職員間での情報の共有になり、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望等を取り入れた通院を行ない必要時には送迎を行なって支援している。入居者様がご家族と行くお墓参りや温泉の利用なども支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室の訪問にて散髪を行なったり、ボランティアの訪問等で暮らしを楽しまれている。里の家祭りを開催し、地域の方との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の病院への受診を行なっている。協力病院は、往診や定期受診、緊急時の受け入れ先になっている。納得の得られたかかりつけ医にて、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の訪問診療が毎週(利用者は2週毎に受診)実施され、訪問看護師も毎週来訪して利用者の健康状態をチェックしています。かかりつけ医などへの通院には職員対応を基本としています。病状によって家族の同行を依頼しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調の変化があった時には、訪問看護師と連携を取り指示を頂いている。体調や表情を観察しながら、早めに受診するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院と状況確認を行いながら、早期退院に向けた話し合いを行なっている。ソーシャルワーカーと連絡を取りながら、ご本人の状況や支援方法等の情報交換を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人を交えての話し合いは難しいが、状態の変化があった時等に今後考えられる事や、ホームで対応出来る事を説明しながら方針を共有している。日頃から、日々の様子や変化等をお話するようにしている。	入居時に「重度化(ターミナルケア)に関する指針」を説明し、同意書を頂いています。利用者が重度化や終末期に近づいた時点で再度、家族や主治医と相談してホームでの看取り又は病院等への移行などの最終判断をしています。職員は重度化ケアの研修も受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルが作成されている。全ての職員が、緊急時に備えた対応を頭に入れている。急変や事故発生時に慌てず対応出来るよう、内部研修等で再確認を行ったり、話し合ったりしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を行なっている。近隣の方にも参加して頂き協力体制を築いている。避難経路の確認や消火器の使用方法、火災に関する勉強会も行なっている。避難マニュアルも作成されており、各居室前には避難済みマークも掲示している。	地域住民の参加協力を頂きながら年3回の避難訓練を実施し、 Consent など細部の日常点検表で確認しています。また、関連マニュアル整備、災害対策に関する勉強会、町内会緊急連絡網の完成、備蓄品の準備など災害に備えています。	寒冷期の停電対策として毛布や防寒衣料などの準備はしていますが、暖房器具類の準備又は借り入れなど防寒対策に関する検討を期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を行なっている。他者に聞こえないような言葉かけや、さりげない誘導を行なっている。	利用者の人格と誇りやプライバシーを損ねないように声かけに十分配慮しており、関連の勉強会やミーティング等で話し合いもしています。介護経過記録表など個人記録も外部者に見られないよう適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定し過ぎせるよう、手の届く場所にパズル、雑誌、塗り絵等を用意してある。その他、体操を行ったりしている。自己決定の難しい方には、選択出来る様にしたたり、反応や表情を見て働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ほぼ一人ひとりのペースで希望に沿って過ごされている。支援の必要な方は、その日の体調や様子によりご本人のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用し、2ヶ月ごとに散髪を行なっている。爪や髭が伸びていないか等も気に掛けている。ご自分で着る服を選んでいただいたり、外出時にはお化粧をされたりとおしゃれが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目からも食事が楽しめるよう、彩りや盛り付けに気を配っている。外食行事で食事を楽しく頂く事もある。出来る範囲で、下膳やテーブル・食器拭きや下拵え等のお手伝いをして頂いている。事業所では年4回の食材テストを実施し50回目を迎えた。	献立は、ユニット単位ですが、季節の食材利用や彩りと美味しさに配慮し、職員と一緒に食事をしています。さらに季節行事や誕生日の特別食、庭でのバイキングや利用者により好評の居酒屋形式の食事会、外食等と楽しく美味しい食生活の提供に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えながら食事の提供を行なっている。食事・水分量は記録に残し、摂取量の把握に努め水分量を確保している。状態に合わせ、とろみを使用したりし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ、訪問歯科を利用している。朝と夜に口腔ケアを行っている。介助や見守り、言葉掛けを行ない、口の中の汚れや臭いが生じないように口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パットの使用を少なく出来るよう、排泄表を使用しながら、トイレでの排泄に向けた支援を行なっている。	自立排泄の困難な利用者には排泄チェック表を参考に、時間間隔や表情などの様子を見ながらさりげない声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。衛生用品の使用も会議で利用者の状態に合わせた用品の選択や使用量などを協議して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分を多く取って頂くよう水分量に気をつけている。乳製品やお好みの飲み物を提供し、水分を多く摂って頂いている。午前・午後と体操を行ったりもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	職員配置の関係で時間帯は決まってしまうが、受診や行事が無い限り、ほぼ毎日入浴の支援は行なっている。個々に沿った入浴の声掛けを行い、拒否があれば無理には誘わず、次の日にお誘いしたりしている。	入浴は、週2～3回を目処にホーム行事開催日等以外の毎日実施していますが、利用者の体調や入浴を拒む場合など状況に応じて日時の変更、シャワーや清拭で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況や体力により、日中の静養を促したりしている。安心して気持ちよく眠れるように、温度に気をつけたりネン交換を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	年に一度は、服用している薬の目的や副作用、用法や用量に書き出ししながら理解に努めている。服薬が増えたり、変更があった時にも確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手の届く範囲に楽しめるパズルや雑誌、塗り絵等を用意し自ら行なえるようにしている。それぞれが自分のペースで過し気分転換にもなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ホーム前で日光浴を行ったり散歩に行くことはある。季節を感じて頂ける様な外出行事も行なっている。ご家族様と温泉に行かれたり、お墓参りに行かれる事もある。	天候状態に合わせてホーム周辺の散歩や買い物、菜園作業の手伝い、ウッドデッキで日光浴を楽しんでいます。さらに、ホームの車両で花見や藻岩山見学、冬期間の大型商業施設訪問など出来るだけ外出の機会を持つよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心の為、お金を持たれている方はいらっしゃるが、お金を使う事はない。ご自分で欲しい物を希望され、ご家族に買って来てもらったり、職員がお預かりしているお金での購入支援は行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話をお持ちの方は電話をされている。他、ご家族様より電話が来て理解が難しい事もある。ご本人より電話をしたいと言われた時には支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、入居者様の状況によりテーブルやソファの配置を変え居心地よく過せるようにしている。ホールの壁には、季節を感じて頂ける様な飾り付けも行なっている。	居間兼食堂の共有空間は、季節の飾り、鉢植え植物、ホーム行事の写真などで家庭的雰囲気があります。一部ユニットは高い天井で開放感があり、スペースも広いのでホームイベントをこの場所で行い、楽しんでいます。玄関、浴室、トイレなども使用しやすく、清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何ヶ所かにソファを配置することで、思い思いの過ごし方をされている。気の合った入居者様同士、一緒にテレビを観たり塗り絵を行なわれたり会話を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人の使い慣れた物や好みの物をお持ちいただくようにしている。場所が変わっても、安心して居心地よく過していただけるように工夫している。	居室前には名札と写真が有り、室内には広い押し入れが設置されています。利用者は使い慣れた家具類や物品を好きなように配置し、壁面には家族の写真や好みの物を飾り、のんびりと居心地良く過しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を掲示し、ご自分の部屋が分かるようにしている。トイレも分かりやすいように表記している。空間を広めにし、ご自分で車椅子を操作出来るようにしている。シルバーカーを使用し自立した生活を送っていただいている。		